

あ」を合計した割合を高い順から並べると、廃棄物関連の50%（前回比なし）、福祉・介護の49.0%（前回比0.5ポイント↓）、販売・売店の42.3%（前回比なし）、物流の35.8%（前回比4.8ポイント↑）、清掃・ビルメンの30.9%（前回比3.2ポイント↑）、給食の27.8%（前回比なし）、公園・緑化の25.0%（前回比17.7ポイント↓）、食品加工の24.8%（前回比なし）となっている（表18-1）。公園・緑化の前回との差が目立つ。経営面を考えると「給与が少ない」と考える人は減る（表18-2）。

2. 職場で“自分はならなくてはならない存在”か

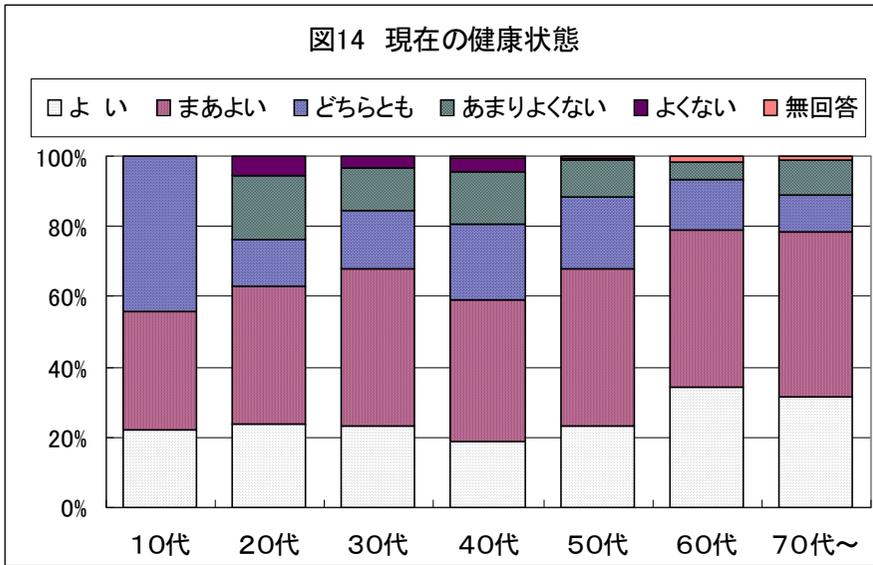
自分は職場になくてはならない存在だと「思う」が30.6%（前回比約5.0ポイント↑）、「思わない」が19.5%（同僅かに↓）、「分からない」と「無回答」との合計が49.8%（同4.5ポイント↓）であった。

職種別に見ると、給食が（是40.2%、不是20.6%）が最高を示し、次いで清掃・ビルメン（是33.7%、不是14.4%）である。是と不是の割合が逆転しているのは販売・売店（是26.9%、不是38.5%）であった（表19）。「分からない」が全体で46.2%と多いのは、自己評価と周りの評価が異なるからではないだろうか。

V. 健康、老後、介護、子育て、ストレスと悩み

1. 健康状態と健康意識

男女ともに60代・70代が他の年代に比べ「健康状態がよい」と答えた割合が高く、3割を超えた（表20）。男女ともに「よい」と答えた割合が一番少なかったのが40代で、男



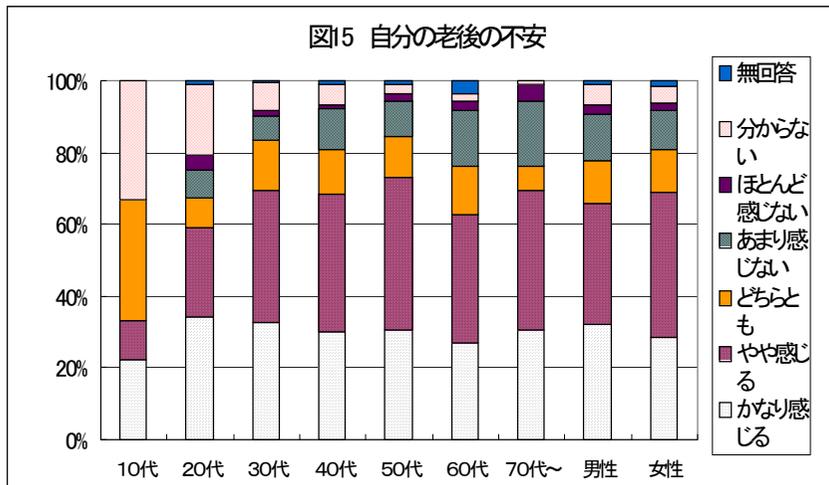
性13.7%、女性20.6%であった。

2. 自分の老後の不安と理由(3つ)

自分の老後に不安を感じている人は「かなり」と「やや」合計で67.5%（前回比5.7ポイント↑）、「あまり」「ほとんど」感じない人は13.8%（同0.7ポイント↓）であった（表23）。

不安内容の順位は前回と全く同様で、トップは「老後の収入」で50.6%（前回比8.9ポイント↑）、次に「自分の健康」47.9%（同8.9ポイント↑）、「配偶者の健康」23.6%（同4.5ポイント↑）、「寝たきり要介護」19.9%（同4.0ポイント↑）と続き、どの理由でも割合が増えている。

不安内容の順位は



3. 親の介護に関する不安

親の介護についての不安は前回同様、若年層から順に増加し40代でピークを迎える。40代では、不安を「かなり感じる」「やや感じる」を合わせると65.8%に上った。また男女差による世代間傾向は女性の不安が少し高い

ものの、ほぼ同じであった。「親はいない」と答えた人は50代で30.1%、60代で51.1%、70代で65.2%であった（表25）。

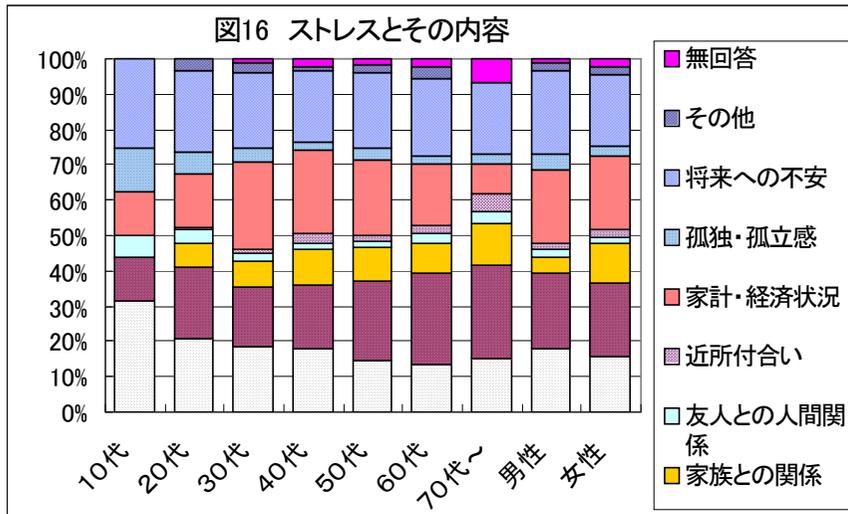
4. 子育ての悩み・不安

女性20代~40代の4割~5割が「不安をかなり・やや感じる」と答えているのに対し、男性20~40代の「不安をかなり・やや感じる」は3割前後にとどまり、約3割が「わから

ない」と答えている（表26）。男性は30代・40代でも配偶者がいない人が半数近くいるために（表6）、「わからない」と答えている人が多いと考えられる。また20～40代でも、子育てに関する不安より、親の介護に関する不安のほうが大きい。

5. ストレスとその解消法

男女ともに10～40代でストレスが「ある」と答えた人は8割以上にのぼるが、50代を



過ぎると男女ともにストレスを感じている人が8割をきり、年齢とともに割合が減っていく（50代75.8%、60代56.4%、70代46.1%）。男女差が明確になるのが60代・70代で、女性の数値が男性より高くなる（60代女性65.5%、男性43.9%、70代女性56.8%、男性34.8

%)。

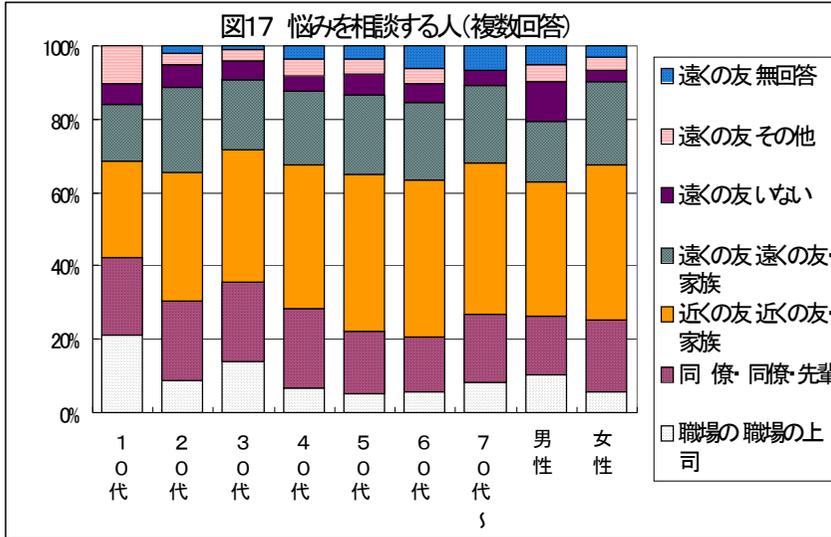
職種別でストレスを感じる人が多いのは、給食84.5%、食品加工83.2%、販売・売店80.8%、福祉・介護76.5%と続く（表27-1）

全体では、前回よりストレスが「ある」と答える人の割合が増えている（前回比6.8ポイント↑）。ストレスの内容の問いでは、3大ストレスは前回と変わらなかった。「将来への不安」が29.2%（前回比5.9ポイント↑）、「職場の人間関係」が28.6%（同3.5ポイント↑）、「家計・経済状況」が27.9%（同2.2ポイント↑）、「仕事」が22.2%（同6.6ポイント↑）。どれも前回より割合が増加した（表27-2）。増加が目立ったストレスの内容は、「仕事」（同6.6ポイント↑）と、「将来への不安」（同5.9ポイント↑）であった。

ストレス発散方法は、年齢ではなく男女によってはっきりわかれた。女性はどの年代も「人と話す」を1番（女性全体で46.3%）、「よく寝る」を2番に挙げた（同20.7%）（50代のみレジャー・遊びが2番）。男性は「よく寝る」（男性全体で20.5%）、「レジャー・遊び」（同19.5%）を1番、2番に挙げた（表28）。女性の3番目は「レジャー・遊び」で19.3%、男性の3番目は「人と話すこと」で17%であった。

前回との比較で目立って増えたのは、男性は「人と話す」（前回比3.4ポイント↑）「飲みに行く」（15.8%で前回比2.6ポイント↑）「旅行」（7.7%で前回比1.5ポイント↑）であった。女性は「人と話す」（前回比12.4ポイント↑）、「レジャー・遊び」（同7.0ポイント↑）が増えた。

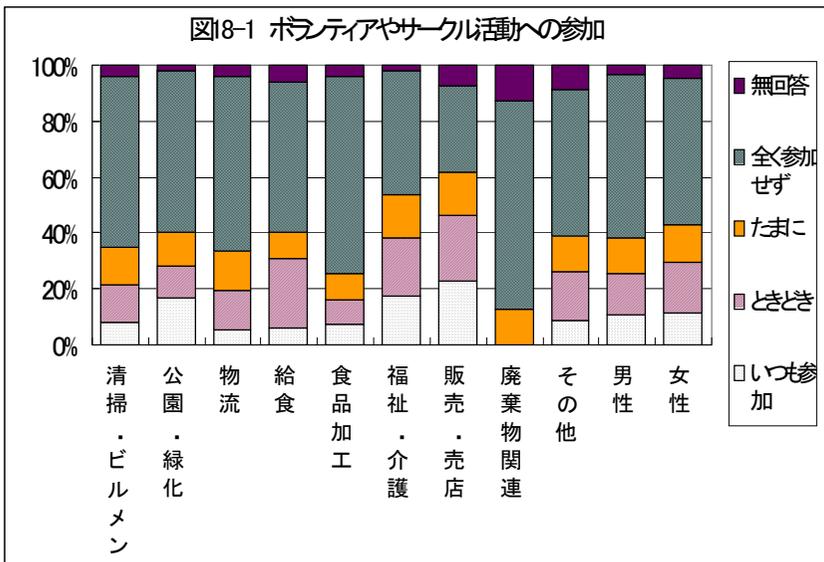
6. 悩みの相談相手



悩みの相談相手は「近くの友・家族」が多かった。相談相手がいらないのは前回同様男性が多く、その割合は女性の約3倍に達した(男性14.3%、前回比0.4ポイント↑、女性4.0%、同1.0ポイント↓)。表27で「ストレスがあり」と答えた割合が一番高かったのは40代男性の86.3%(うち相談相手がいらない割合は12.3%)であったが、「相談相手がいらない」と答えた割合が一番高かったのは30代男性であった(ストレスありが84.9%、相談相手がいらないのは18.6%)。

VI. 組合員と地域社会

1. ボランティアやサークル活動



全体では、「いつも参加」「ときどき」を合計した数値は前回より増えた(今回27.9%、前回21.3%)。全く参加しない割合は、男女ともに10代88.9%、30代71.0%が高い(表30)。女性は40歳以上、男性は60歳以上になると約半数の人が参加するようになる。また、「いつも参加」「ときどき」を合計した数値は、20代、30代、50代、

60代は男性より女性のほうが高かったが、40代はあまり差がなかった。他世代と異なる傾向を示したのが70代で、女性より男性のほうが参加率が高かった(女性18.9%、男性26.1%)。